

資料館 だより

No.5
2006年
3月号

あおぞら財団附属の「西淀川地域資料室」は大気汚染公害問題資料、西淀川地域資料などを所蔵しています。ぜひ、ご利用ください。
場 所: あおぞらビル5F
利用時間: 毎週金曜日 10:00 - 17:00
(12:00 - 13:00は休み。祝日休み)



2006年3月 あおぞら財団附属「西淀川・公害と環境資料館」がオープンします。3月18日(土)は記念シンポジウムとオープンセレモニーで、一般の資料利用の初日は3月20日(月)です。以降、毎週月曜日と金曜日が開館日です。

資料館オープン準備中 ビデオ視聴コーナーができました。

「西淀川・公害と環境資料館」にはあらたにビデオ視聴コーナーを設けました。西淀川公害や語り部のビデオ、環境教材ビデオ、30年前の地域の様子を撮影したお宝映像などを見ることができます。また、展示ケースもあらたに設けました。さて、何が陳列されるかお楽しみに。



こんな感じです。

昔の阪神国道(2号線) 大和田街道を歩いて尼崎へ

西淀川区を横断する大和田街道は難波から尼崎大物まで続く街道で昔の阪神国道です。姫島神社から関西スーパー、大和田小学校に続く道といえばわかる人も多いかな? 歴史好きにはたまらないウォーキングです。



姫島あたり

第27回西淀川地域研究会

西淀川における公害と子どもの健康被害



西淀川地域研究会をご存知ですか?

大阪電気通信大学の小田康徳先生が主宰している研究会で、2ヶ月に一度公害を中心とした西淀川の地域史の

研究会を行っており、27回も積み上げてきました。

1月27日には柏里の学校医を長く勤めている藤森弘医師から「西淀川における公害と子どもの健康被害」と題してお話がありました。

西淀川の子ども達には日射不足で引き起こされるハリソン溝という胸のくぼみが多く見られ、西淀川は大気汚染で日光が遮られるのが原因かもしれない、しかも現在も多いことや、西淀川裁判の証言で裁判官と意気投合したことなど、臨場感たっぷりのお話でした。

裁判の証言や書証は西淀川地域資料室で保存しています。資料が話を豊かにし、話が資料の背景を教えてくださいというスタイルができています。

資料室の所蔵資料を使って研究を 修士論文『市民運動の発展と環境NPO』

前号でご紹介したように、大学生たちが研究論文の作成に西淀川地域資料室の所蔵資料を利用するケースが増えてきています。このたび、大阪市立大学大学院生・入江智恵子さんの修士論文がまとまりました。公害反対運動からあおぞら財団が設立する過程などを概括し、市民運動の変容について分析しています。

資料館愛称 応募期間終了(2月28日)

応募総数 1403 件にのぼる!

資料館の愛称募集に、なんと1403件もの応募がありました。ありがとうございました。全国各地から寄せられた愛称には、とってもユニークなものがいっぱいです。決定した愛称は3月18日に発表します。

いよいよ本番近づく

3月18日資料館オープン記念シンポ

記念シンポ「環境再生の時代に公害経験から学ぶ」では、全国各地の最新情報を知ることができます。詳細は裏面がチラシ、ホームページをご覧ください。

ぜん息発作がおきた夜 命をつなぐ吸入器

資料室では資料を「紙」「モノ」「音声」「映像」「写真」に分類できるようにしています。

「モノ」って何？と思われる方もいらっしゃるでしょう。「紙」「音声」「映像」「写真」以外が「モノ」です。たとえば、判決の時に弁護士が持って走る旗や、横断幕、のぼりや、患者さんが使っていた吸入器、大気汚染で枯れたイチヨウの葉を標本にしたものなどです。

大気汚染公害ということがわかるモノといえば吸入器（写真）かもしれません。この吸入器は高橋和子さんという大変重いぜん息を患っていた方が所有していた



とっても重い吸入器

ものです。1970年ごろのもので、当時は吸入器が市販されておらず、診療所で無理をいってわけてもらったそうです。起動させると非常に音がうるさく、重くて簡単に持ち運びできません。吸い口はガラス製です。

吸入器があれば夜遅くに病院にいなくてもすみ、明け方に発作がおきかけると吸入器をくわえてじっと我慢していたそうです。普段は普通の人と変わらないように見えても夜になると発作が出る、ぜん息患者さんのつらい夜の様子が伝わってきます。（林）

やかた 館 訪問記

その5
まちとくらしの歴史館
神戸深江生活文化史料館
神戸市東灘区深江本町 3-5-7

阪神電車「深江」駅を降りてすぐのところには史料館があります。生活用品、農具、漁具、医事資料などが所狭しと並



んでいる様子は圧巻です。旧本庄村の史誌を編纂していくあいだに収集された資料を保存、展示しており、多くの有志の方から寄贈された貴重な民具や史料だそうで、半農半漁の村の様子がわかります。

開館は土曜日と日曜日です。それは「運営が地元ボランティアでおこなわれており、平日はみな、勤めがあるから」とのこと。地域に支えられた温かい史料館だなという印象をうけました。

（鎗山 / 2006年2月26日訪問）

お知らせ

2006年3月31日（金）18:00～20:00
第28回西淀川地域研究会
「西淀川地域における工業専用地域指定反対運動」
報告者 林美帆氏（あおぞら財団研究員）
主宰：小田康徳氏
会場：あおぞらビル 5F

2006年3月18日（土）14:00～17:00
「西淀川・公害と環境資料館」オープン記念シンポジウム
環境再生の時代に公害経験から学ぶ
～公害・環境問題資料の保存と活用に向けて～
主催：あおぞら財団
共催：日本環境会議、全国公害弁護団連絡会議、全国公害患者の会連合会
会場：エルモ西淀川（大阪市西淀川区大和田 2-5-7）
阪神西大阪線「福」駅より徒歩5分 tel.06-6471-9217
資料代：500円

<プログラム>

あいさつ（主催者、環境省）
開催趣旨説明（芝村篤樹・桃山学院大学教授）
基調後援（淡路剛久・日本環境会議理事長）
問題提起（あおぞら財団、全国公害弁護団連絡会議、四日市公害を記録する会、清流会館、新潟水俣病資料館、神戸深江生活文化史料館）
意見交換
コーディネーター：佐賀朝・桃山学院大学助教授

編集後記

今回「館訪問記」で紹介しました「神戸深江生活文化史料館」の取り組みは、3月18日のオープン記念シンポジウムでも報告があります。

さて、間近に控えたシンポジウムですが、多くの方に来ていただき、さまざまな現状や課題、展望をみなさんと共有できればと思います。お待ちしております。

「資料館だより」No.5 2006年3月号
(隔月1日、年6回発行)

発行所 あおぞら財団 西淀川地域資料室
編集スタッフ 鎗山善理子、林美帆

連絡先 (財)公害地域再生センター(あおぞら財団)
〒555-0013 大阪市西淀川区千舟 1-1-1 あおぞらビル4F
TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885
Email: webmaster@aozora.or.jp
http://www.aozora.or.jp/shiryou